地域おこし協力隊の活動日誌

地域の新しい活力をめざして

地域おこし協力隊員の活動をお伝えするこのコーナー。今回は私、二川智南美のこゆ朝市での地域PR活動と、地域おこし協力隊インターン制度、町長講話について紹介します。

くじ引きで新富をPR!? こゆ朝市で試験販売

新しいアプローチで新富町をＰＲしたい。そう考えた筆者は、手に取りやすい名刺サイズの「寄り道しんとみカード」を作りました。写真のように、表面には不思議なワード、裏面にはワードにそった町内のお店やスポットを3～4か所紹介しています。

このカードを、2月19日のこゆ朝市に「くじ引き」として試験販売すると、家族連れをはじめ約50組が引いてくださり、「新富在住だけど初めて知った」「関心がなかったけど行ってみたいと思う」などの感想をいただきました。ワクワク感とランダム性を持つくじ引きだからこそ、新たな興味を生み出すきっかけとなったのではないでしょうか。

種類の追加や町外での試験販売も検討しつつ、引き続き、新富を楽しくおもしろくＰＲする方法を考えていきたいと思います。

協力隊のインターン制度で 実際の活動や生活を体験中

新富町では、1月から総務省が創設した「地域おこし協力隊インターン制度」を活用し、地域おこし協力隊インターン生の受け入れを開始しました。インターン生は町長からの委嘱を受け、最長3か月の期間中、隊員と同様の地域協力活動に従事します。インターン期間を設けて、隊員の活動や新富町の生活を体験してもらうことで、「思っていた仕事内容と違う」といった入隊後のミスマッチを防ぐのがねらいです。

3月1日現在、新富町では11名のインターン生が活動しています。取材時は、追分分校で洗濯やベッドメイキングなどの宿泊者受け入れ準備、芝生づくりのための雑草処理などを行っていました。

活動計画の参考に 町長講話を実施

2月10日、スポーツ観光に関連する活動を行う隊員を対象に、小嶋町長による講話が行われました。この講話は、町の取り組み事業等に関する知識を深め、隊員が来年度の活動計画に反映させていくために実施されました。

1月に着任した岡野有里子隊員は「行政サービスの充実に驚きました。初めて町に来た自分ならではの視点を町に共有したいです」と意気込みを語りました。

今後も町中で協力隊の姿を見かけることがあるかと思います。ぜひ気軽に声をおかけください。

（文・地域おこし協力隊　二川）